



協同労働による担い手確保

協同労働の協同組合がワーカーズコープである。組合員、すなわち働く者、利用者、市民が出資し、経営し、労働する協同組合である。この法制化運動が続けられてはきたものの、いまだ実現していないとはいえ、業務内容に応じて特定非営利活動法人としてのワーカーズコープ、人格なき社団としてのセンター事業団、企業組合としての労協センター事業団の三つの業務形態を使い分け、業務分担することによつて一八一億の事業高（二〇一四年度）と約六千名の組合員を有するまでに発展している▼今、ワーカーズコープが農業、第二次産業への挑戦を開始している。宮城県大崎市では、就業困難な若者や障害を抱える人たちが活躍できる場を設けようと、地元農業者もいっしょになつて農事組合法人を設立。今年三月にはビニールハウスや出荷所を完成させてトマトの苗を定植、五月の下旬からはトマトの出荷を開始した。これに参画した農業者は「農福連携に取り組みみたいワーカーズコープと、農業の生産性を上げて雇用を産み、地域活性化を図りたい我々の思いが重なつて」の取組みだと語る▼小田原市で二宮尊徳の報徳思想の実践を目指して活動してきた報徳農場とセンター事業団が提携しての「報徳ワーカーズ」の立上げ。センター事業団による青森県での屋上農園づくり、体験農業の運営等、疲弊する農業の協同労働による再生をめざす▼農協の自己改革がすすめられているが、担い手の確保・育成は緊急の重要課題だ。協同組合が提携しての協同労働への注目、挑戦を大いに期待したい。

(土着菌)